

「化学工学年鑑2019」の発刊にあたって

小林 克彦*

恒例の年鑑をお届け致します。

巻頭言とは、今号の内容を総括して読者の方のご興味を引くための文章ですが、今回は化工誌編集委員長を拝命し、2年間で読者の皆様に語りかけることができる唯一の機会となります。そこで、化工誌について私の思うところを述べさせていただきます。

皆様は朝、テレビを見ていらっしゃいますか？ 私は東京に赴任し日が浅いので東京のことが知りたく、「TOKYO-MX、モーニングCROSS」を流し見しています。番組中のCMで、東京新聞：広告キャラクターの「モーリー・ロバートソン」は、「興味のないことに興味を持つことは難しい」「少なくとも目を通す」「知ることは目を通すことから」「食わず嫌いで知らなかった情報が、意外とご馳走だったりして」と語りかけてきます。

◆化工誌の内容は、会員皆様にとって身近な話題

化工誌編集委員会は産学協業であり、企業側を大まかに分けると、重化学・エネルギー系、エンジニアリング系、ファイン・医薬系の3グループになります。そこに、化学工学会の各部会より推薦頂いた委員の方（おもに大学）と大学・高専の先生方により構成されています。つまり、会員の皆様にとって身近な方々が委員になっているということです。この3グループで毎月1度の会合により、特集のテーマについて議論を重ね、最近の興味ある話題について編集コンセプトをまとめ、その道の有力な研究者・技術者の方々に執筆を依頼して特集が出来上がります。化学工学が関わる分野は多岐にわたりますので、会員の皆様が興味のある特集を毎回届けることにならないかもしれません。しかし、何回かに1回は、必ず皆様のご興味を引く内容であると自負しております。「少なくとも、目次だけでも、目を通す」ことをして頂き、「食わず嫌いで知らなかった情報」を得て頂きたいと思えます。

◆化工誌の内容は、良質な情報

インターネットの普及に伴い、あらゆる情報が簡単に手に入るようになったらと思っておいででしょうか？ 私もある技術領域について、ネットで調べたことがあります。しかし、多くは公的な機関の報告・レポートであったり、講演会の資料です。それ以上の情報は、有料で調査会社を使ったりしますが、アウトラインがわかるだけで詳細なことはわかりません。当たり前のことで、企業や研究者は核心技术は必ず秘匿するからです。インターネット情報に比べ化工誌の情報は、①化学工学会として執筆者に記事を依頼し

て出された情報、②化学工学会員にしか公開されない有料の情報、という特徴があります。ですから、信頼のおける情報であり、記事に興味を持って頂ければ執筆者に連絡をとることもできます。

◆化工誌のWeb化

皆様はご自分のスマホに、ニュースアプリを入れていますか？ とても便利ですね。トップニュースに続いて、自分の興味ある分野の記事が並んでいます。でもそれって、情報をコントロールされているということ、お気づきですか。無料のニュースは広告収入で成立していますから、なるべく広告を表示させるためにユーザーの閲覧傾向からAIが記事を選定し、よりユーザーに記事を表示させ、同時に広告を見るよう誘導しています。

Web版化工誌は、そこまで高度ではありません。基本的に紙媒体を電子化します。それは、皆様にとって「身近で良質な情報」を維持した上に、利便性を向上させるためです。紙媒体は残りますが、白黒印刷となります。執筆者の方には、カラーのWeb版が「正」になるので、「白黒で見やすい図解にする必要は無い」とお願いするつもりです。

そこまですることは無いとお思いになる皆様に、「モーリー・ロバートソン」の言葉をお伝えします。「今さら変われないよ、というあなた」「今さら、よりも、今から、新しい情報を取り入れませんか？」「変わるキッカケになるかもしれません」

◆Web化後のe化工誌について

化工誌には特集以外にも、「私の研究者・技術者人生」「研究室紹介」「学生会員の声」「広がれ！ダイバーシティ」「連載講座」「企業広告」など、化学工学会に関わる方々の思いをお伝えしたり、技術的なテーマを深掘りしたりする記事がたくさんあります。当面は紙面をそのままWeb化しますが、オープンに掲示してより多くの読者に発信したい情報と、クローズにして有料である質の高い情報とに切り分けるべく、検討していきたいと思えます。

最後に、会員皆様に化工誌をご愛読頂くことが、編集をしている私ども委員の力になっております。これからも変わらぬご支援・ご鞭撻のほど、よろしく願います。



**令和元年度年鑑編集WG

高井 努(アズビル)、中澤 光(東北大学)、牧 泰輔(京都大学)、南 公隆(産業技術総合研究所)、百瀬 健(東京大学)

*旭化成(株)生産技術本部 技術企画室 令和元・2年度化工誌編集委員長